

# 平成29年度：事業計画書

## A. 研究実践校への助成

時代の課題に応える研究、教育内容を深める研究、地域に根ざして地道に意欲的な研究に取り組む学校の中から、年に数校を選んで支援のための研究助成を行う。

### 《小学校》

- 特別活動 (東京都) 中野区立 武蔵台小学校  
〒165-0031 東京都中野区上鷺宮5-1-1  
研究主題 「基本的な生活習慣・家庭学習習慣の確立・定着を目指して」
  
- 全教科・全領域 (神奈川県) 座間市立 相武台東小学校  
〒252-0013 神奈川県座間市栗原1302  
研究主題 「心豊かに生き生きと活動する子を目指して」  
— 学び合うことを中心に —
  
- 環境教育 (京都府) 木津川市立 城山台小学校  
〒619-0215 京都府木津川市城山台6-1-1  
研究主題 「自然・人・社会とつながり主体的に未来を創る児童の育成」  
— 「学びのゴール」を明確にした、対話的で深い学びの実践 —
  
- 健康教育 (岡山県) 鏡野町立 香々美小学校  
〒708-0312 岡山県苫田郡鏡野町香々美828  
研究主題 「イキイキ生活で脱メディア依存」

### 《中学校》

- 全教科・全領域 (宮崎県) 延岡市立 旭中学校  
〒882-0051 宮崎県延岡市富美山町298-1  
研究主題 「地域とともにある学校のあり方」

## B. 教育現場（地域研究団体）への助成

学校の教諭や大学教官等学校現場を主体とした研究団体・学会等に対して、支援のための助成を行う。研究テーマは、教科領域のほか、特別活動、カウンセリング、道徳教育、情報教育、障害者教育、環境教育、国際理解教育、野外教育等の分野としている。

### 《科学教育》

- 鹿児島県 — 鹿児島大学若手教員サイエンスカフェの会  
(代表者：飯笹英一／鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 助教)  
〒890-8544 鹿児島県鹿児島市桜ヶ丘8-35-1  
研究主題 「大学から地域へ 学びの意欲と科学リテラシーを育む教育」  
— サイエンスカフェを通して —

### 《算数・数学教育》

- 新潟県 — コンパスの会〔新潟算数・数学教育研究会〕  
(代表者：小畑 裕／新潟市立両川中学校長)  
〒950-2037 新潟県新潟市西区大野56-5  
研究主題 「児童・生徒が生き生きと学ぶ算数・数学的活動の追求」

### 《言語技術教育》

- 高知県 — 言語技術教育研究会  
(代表者：梶原和美／香美市立山田小学校)  
〒784-0052 高知県安芸市井ノ口乙142-2 (事務局)  
研究主題 「言語活動の充実を図る言語技術を使った授業展開の研究」

### 《家庭教育》

- 日本家庭教育学会 (会長：中田雅敏／八洲学園大学教授)  
〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-1  
研究主題 「家庭教育に関する理論的・実践的研究」

## C. 野外教育活動の推進

野外教育（とくに自然体験活動）のいっそうの充実と推進に向けて、指導者養成の講習会を実施する。また、野外教育・自然体験活動に関する実践記録や情報等を集めて編集する機関誌「野外教育情報」ニュースレターを年2回発行して、教育関係の諸機関・諸団体に配布し、知見の普及を図る。

### ○ 野外教育の指導者講習会

年に複数回の開催を予定する。講習会はパッケージド・プログラム「IORE SHEET (アイオレシート)」を教材とし、野外教育(とくに自然体験活動)に関する知識、指導法、安全対策等を伝え、指導者の養成を図る。対象は、学校教育関係者、社会教育関係者、大学等の学生、民間の青少年育成に携わる指導者など。

平成29年度は、次の岐阜県での開催のほか、他に長野県などで検討中である。

10月7日(土) - 10月9日(月・祝) 2泊3日

実施場所は、国立乗鞍青少年交流の家 (岐阜県高山市岩井町913-13)

### ○ 機関誌「野外教育情報」ニュースレターの刊行、配布

野外教育に関する実践事例や各種の情報、特集テーマの下での記事を掲載したニュースレター形式の機関誌「野外教育情報」を年2回(1月/7月)発行し、教育関係の諸機関・諸団体等に配布する。発行部数は各回1,500部を予定する。

## D. 研究報告誌の刊行・配布

前年度に研究助成を行った研究実践校や地域研究団体・学会等の研究成果を掲載した「教育研究情報」誌を年1回発行し、教育研究資料として教育関係の諸機関・諸団体に配布し、成果の普及を図る。

### ○ 「教育研究情報」の刊行、配布

平成29年9月に発行する。前年度に研究助成を行った、研究実践校、研究団体や学会等の研究の成果を掲載して、教育センター・教育研究所、教育委員会、教育課程をもつ大学、小・中学校の一部、青少年教育施設などの教育関係の諸機関・諸団体約800個所に配布(寄贈)する。現在は第48号まで発行している。

## E. 医学・医療教育及び教育技術への研修支援

医学・医療分野での教育及び教育技術の充実・刷新に寄与するため、インターネットを利用した教育や研修(eラーニング)を計画している学会・医療機関・大学等に対して、MED I@ (メディアアット)システムの導入、コンテンツ等の制作と配信、当該システムを利用した研修プログラムの整備・運営等に対して支援を行い、この分野でのeラーニングの普及・展開をめざす。

また、活動を継続して維持できるように、賛同者による会員の組織づくりも行う。

- 医学会の大会・学術集会等のネット配信のためのコンテンツ制作・配信  
一般社団法人日本癌治療学会の学術集会、日本小児難治喘息・日本アレルギー学会や日本緩和医療学会の大会での講演など、各医学会での講義・講演を収録し、インターネット上に配信するコンテンツを制作して支援する。
- 医学会のeラーニング利用への支援  
一般社団法人日本癌治療学会や一般社団法人日本泌尿器科学会の専門医教育のためのeラーニングシステムについて、その整備・配信を支援する。
- 医学会の資格認定のためのeラーニングの構築  
がん医療情報の国民への提供とその制度の確立をめざし、国民の福祉に貢献することを目的に、地域でのがん医療情報を収集・提供する「がん医療ネットワークナビゲーター」を養成するため、一般社団法人日本癌治療学会のもとで、その資格認定のためのeラーニングシステムの整備・推進に引き続き努める。プログラムコンテンツの制作、配信、システムの整備等の支援を行う。  
また、各医学会の専門医制度の資格認定に関わるeラーニングの利用について、調査を進める。
- 市民公開講座のインターネット配信  
日本緩和医療学会が行う市民のための公開講座において、講演内容を収録・配信し、一般市民も視聴できるように支援する。

## F. 世界点字作文コンクールへの支援

視覚障害者の方々に点字と音声の架け橋を築くため、オンキヨー株式会社と毎日新聞社点字毎日とが平成15（2003）年に創設、その後世界規模（現在は世界4地域128か国）に発展した。国内・海外両部門で優秀作品を選考・表彰し、入選作品は、点字と活字を併記した作品集として、全国の盲学校、点字図書館、公共図書館1,200個所に寄贈している。この世界点字作文コンクールを、共同開催の形で支援する。

## G. スポーツによる教育：ゴルフアカデミー

平成27年度以降募集を休止しているこの事業については、課題を整理し、継続の可否をこの年度末までに判断することとし、法人としての意思決定を行う予定である。

### [その他、国際交流研修への支援]

中華人民共和国とわが国日本との医療交流に寄与するため、成都人民医院の医師・看護師を招き、東京女子医科大学病院、牛久愛和総合病院等で3か月程度の医療研修を計画する。受入事務や滞在宿舎の手配、研修先や研修プログラムの策定など必要な支援を行う。この事業は現段階では法人会計事業として行う。 以上

# 平成29年度収支予算書（正味財産増減計算ベース）

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

（単位：円）

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合 計
<b>I 一般正味財産増減の部</b>			
<b>1. 経常増減の部</b>			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益			
基本財産受取利息		5,000	5,000
基本財産受取配当金	645,000		645,000
② 特定資産運用益			
特定資産受取利息		500	500
③ 事業収益			
講習会事業収益	600,000		600,000
医学・医療e-ラーニング事業収益	12,250,000		12,250,000
その他研修事業等収益		2,000,000	2,000,000
④ 受取寄付金			
受取寄付金	30,500,000	5,500,000	36,000,000
⑤ 雑収益			
受取利息		500	500
経常収益計	43,995,000	7,506,000	51,501,000
(2) 経常費用			
① 事業費			
給料手当	2,891,000		2,891,000
会議費	384,000		384,000
旅費交通費	1,080,000		1,080,000
通信運搬費	660,000		660,000
消耗什器備品費	68,000		68,000
印刷製本費	2,000,000		2,000,000
助成金等	30,500,000		30,500,000
研究実践校	1,000,000		1,000,000
教育現場	600,000		600,000
野外教育	1,700,000		1,700,000
調査・開発	200,000		200,000
医学・医療e-ラーニング	27,000,000		27,000,000
賃借料	2,320,000		2,320,000
雑費	120,000		120,000
支払寄附金	4,000,000		4,000,000
② 管理費			
役員報酬		4,750,000	4,750,000
給料手当		1,239,000	1,239,000
会議費		216,000	216,000
旅費交通費		270,000	270,000
通信運搬費		440,000	440,000
消耗什器備品費		82,000	82,000
光熱水料費		175,000	175,000
賃借料		1,000,000	1,000,000
租税公課		2,000	2,000
支払負担金		50,000	50,000
雑費		180,000	180,000
支払手数料		1,000,000	1,000,000
福利厚生費		553,000	553,000
その他研修費		1,500,000	1,500,000
経常費用計	44,023,000	11,457,000	55,480,000
当期経常増減額	△ 28,000	△ 3,951,000	△ 3,979,000

2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 28,000	△ 3,951,000	△ 3,979,000
一般正味財産期首残高			23,513,280
一般正味財産期末残高			19,534,280
II 指定正味財産の部			
指定正味財産増加額	645,000	6,000	651,000
基本財産運用益		5,500	5,500
基本財産受取利息			645,000
基本財産受取配当金	645,000		
特定資産運用益		500	500
特定資産受取利息			
指定正味財産減少額	△ 645,000	△ 6,000	△ 651,000
一般正味財産への振替額	△ 645,000	△ 6,000	△ 651,000
投資有価証券評価益	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高			37,561,600
指定正味財産期末残高			37,561,600
III 正味財産期末残高			57,095,880

[注記] 平成29年度収支予算書のうち、一般正味財産期首残高は、平成28年度収支予算書に掲載の一般正味財産期末残高を記載している。

また、指定正味財産における基本財産投資有価証券の評価損益は、3月末時点の時価評価のため、本予算編成時には未算定である。